

# CSR コミュニケーションレポート 2015

## 外部団体および企業とのコラボレーション

**JHDAC**  
**JAPAN HAIR DONATION & CHARITY**  
 NPO 法人 JHDAC (JAPAN HAIR DONATION & CHARITY) の活動に賛同し、当社の「愛のチャリティキャンペーン」とのコラボレーションに向けた動きが進んでいます。

～みんなでひとつつながろう～  
**OneWorld** プロジェクト

「One World プロジェクト」(協力 / 公益財団法人日本対がん協会、後援 / J-CAN) の活動に賛同し、東日本大震災で被災された、がん患者様のウィッグの「お手入れ支援サービス」を提供しています。

**日本毛髪科学協会**  
 毛髪と皮膚についての正しい知識をお客様へお伝えできるように、公益社団法人日本毛髪科学協会に加入し、社員への毛髪診断士の資格取得の推進に取り組んでいます。



**ツバルの森**  
 ツバルの森を通じて、日本国内山間部の森林再生活動に取り組んでいます。

このマークは、ツバルの森の植林の利用を表すマークです。

**BERC**  
**経営倫理実践研究センター**  
 企業の経営倫理を实践研究するわが国初の産学協同の専門機関である一般社団法人経営倫理実践研究センターに参加し、経営倫理に関する組織体制の強化に努めています。



**日本毛髪工業協同組合**  
 毛髪業界が健全に発展し、お客様からの信頼を得られるように、業界団体「日本毛髪工業協同組合」の運営に取り組んでいます。

**VOL-NEXT**  
**がん患者の生活をサポート**  
 患者様が安心して、医療向けウィッグをご利用できる体制を整えるため、がん患者サービス事業会社である VOL-NEXT 社による医療講習を実施しています。



表紙のイメージ  
 文字と絵を組み合わせ、独特の書画「花咲く書道」で評価の高い、女流書道家・永田紗戀様にアデランスの取り組みを、「感謝」の文字に表現していただきました。

### 男性向けブランド

**ADERANS**

男性向けにオーダーメイド・ウィッグ、増毛商品、育毛サービスを提供しているブランドです。

### 海外ウィッグ

**HAIRCLUB**

米国で男性向け、女性向けにオーダーメイド・ウィッグ、育毛サービス、毛髪移植(ヘアトランスプラント)技術を提供しているブランドです。

**先頭**  
 SENTOO COLLECTION

センター・コレクションは、医療用ウィッグを中心に事業展開している、欧州におけるアデランスグループの統一ブランドです。

### 女性向けブランド

**FONTAINE**  
 レディース  
**アデランス**

女性向けにオーダーメイド・ウィッグ、レディースオーダーメイド・ウィッグ、ヘアケア&スカルプケアを提供しているブランドです。

### 毛髪移植

**BOSLEY**

世界 25 万例以上に及ぶ治療実績を誇る、毛髪移植(ヘアトランスプラント)技術を提供しているブランドです。

フランス  
 ドイツ  
 ベルギー  
 オランダ  
 イギリス  
 スウェーデン  
 ノルウェー  
 デンマーク

日本  
 中国  
 台湾  
 タイ  
 フィリピン  
 シンガポール  
 ラオス

アメリカ  
 カナダ

株式会社 **アデランス**

CSR 推進部

〒160-0007 東京都新宿区荒木町 13 番地 4

住友不動産四谷ビル

TEL: 03-3350-3542

E-mail: csr@aderans.com

URL: http://www.aderans.com/csr/



Network Japan  
 WE SUPPORT

2014 年 4 月に国連グローバル・コンパクトに加入しました。社会の良き一員として、持続可能な成長を実現し、本業を通じて社会に貢献する「事業と一体となった戦略的 CSR」を積極的に推し進めて参ります。

2015 年 9 月発行



笑顔のために

これまでも、そしてこれからも続けていく  
 アデランスの取り組み

株式会社 **アデランス**

## 経営理念

私たちアデランスグループの最大の使命は、  
毛髪関連事業を通じて、  
より多くの人々に夢と感動を提供し  
笑顔と心豊かな暮らしに貢献することです。

私たちが目指すもの

「最高の商品」

「最高の技術」

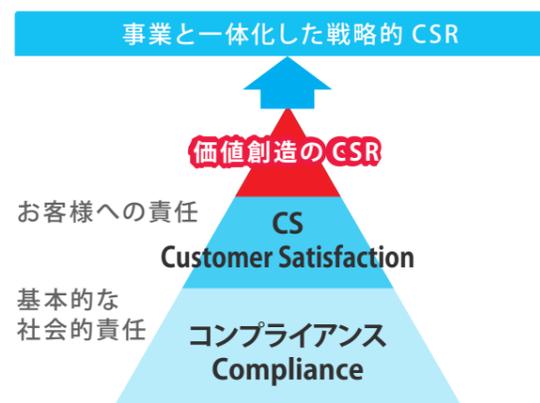
「心からのおもてなし」

## CSR 方針

アデランスグループのCSR活動は、  
「社会的価値を持った活動」を  
さらに深め、広げていくことで、  
お客様や社会からの信頼に基づいた、  
**健全で永続的な企業成長**を目指すことです。

### アデランスのCSRについて

アデランスグループでは、CSRへ取り組むことの意義を「健全で永続的な企業成長を目指すこと」という成長ドライバーにすることで事業との一体性を明確にし、本業を通じたCSRと位置づけたことにあります。そうした活動の根幹には、「自社の強みを社会で活かす」ことがあります。



## トップメッセージ

# グッドカンパニーの実現を 目指して



株式会社アデランス  
代表取締役会長 兼 社長 CEO  
根本 信男

お客様の毛髪に対するニーズに応えるため、当社が大事にしているのが「アフターサービス」で、中でも「技術」を大切にしています。

当社が地道に取り組み続けてきた技術力は、さまざまなお客様に評価いただけるようになりました。その分、お客様や社会に対する、当社の責任は大きくなっています。

それらの責任を適正な形で発展させることが当社のCSRであり、健全なコンプライアンスを事業の基盤に置かなければならないと考えております。

「世界のブランド アデランス」という夢を実現するため、社会的価値の新たな創造に挑戦してまいります。



水尾 順一  
株式会社アデランス 社外取締役

資生堂在任中に福原会長(当時)の下で、CSR 部署を立ち上げ、日本で最も進んだ CSR 活動を実現した後、1999年に資生堂を退社し駿河台大学へ転身。その後、「マーケティング倫理」により、アンゾフ・アワード特別文庫賞を受賞。また、西武ホールディングス「企業倫理委員会」社外委員として、企業の経営倫理を支え、同社の再上場へ貢献した。現在は、日本における CSR の第一人者として活躍、日本経営倫理学会副会長、日本経営品質学会副会長の要職にある。2015年5月、株式会社アデランスの社外取締役に就任。

独自の社会的価値を生み続けるアデランスの CSR

アデランスグループは、百年を超える長寿企業になるビジネスモデルを感じます。

それは、本業を通じた戦略的 CSR として、営業と一体化している点です。他の企業ではあまり見られないことで、感動したことを覚えています。

CSR は「本社が勝手にやっていること」と誤解されていることがあります。CSR は、現場の人

も含め、全員が一体となって行うものです。そうした取り組みで会社がよくなり、社会をよくすることに繋がります。

また、根本会長が人にお会いするときに正装としてカウンセラーの白衣を着ている点にも驚きました。現場重視の姿勢を貫き通していることを示すもので、その姿は本物だと思いました。お客様の顔を思い浮かべ、何が彼らの満足につながるか、常に考えて行動されているように思います。

今後も、外部団体との新たなコラボレーションなどにより、さまざまな社会的価値の創出を期待しています。

新たなコミュニケーション

ニコニコ動画 2015 に出展



ゲームのキャラクターに扮する ざわちゃん様



ウィッグを製作する服部真樹課長

2015年4月に幕張メッセで開催された「ニコニコ超会議 2015」に出展しました。本イベントは、人気動画共有サイト「ニコニコ動画」の世界を再現するもので、入場者数が15万人、ネット訪問者数は790万人を超える、注目度の高いイベントです。

アニメやゲームのキャラクターに、ウィッグを活用してモノマネやコスプレで再現し、その変身の様子がネットで人気を集め、アデランスの技術力の高さに多くの参加者から関心が集まりました。

現役営業部長による CSR セミナーの発表



経営倫理実践研究センター(BERC)のCSR部会が東京で開催され、「社会貢献をビジネスに活かすCSR」というテーマで、東関東営業部長の藤生善則が事例発表を行いました。現役の営業部長がCSRの発表をすることは、BERCでは初めての事例で、アデランスのCSRが事業と一体化していることを示す結果となりました。



株式会社アデランス 宣伝部 課長 金子 英司

新たなコミュニケーション、ニコニコ超会議 2015

アデランスのブランドは若年層には思ったほど届いていないことがわかり、従来とは全く違うメディアの「ニコニコ超会議 2015」に今年も出展しました。今回のイベント来場とネット視聴での接触者の好意度が、非接触者より高いことがわかりました。今後も新たな方法により、若いステークホルダーとのコミュニケーションを深めてまいります。

アデランスグループの CSR 活動とは、「社会的価値を持った活動」をさらに深め、広げていくことです。2011年より始まった、この CSR プロジェクトの取り組みは、新たな社会的価値の創造、そしてコラボレーションと、さまざまな展開に発展し続けています。

他企業や NPO 団体とのコラボレーション

NPO 法人全国在宅リハビリテーションを考える会への協力

特定非営利活動法人 全国在宅リハビリテーションを考える会の定例総会で、2014年に当社の CSR について発表しました。2015年には自社の強みを活かす意味において、中京営業部を中心に、同法人のメンバー企業に対しシャンプー教育を行っていることを発表しました。



特定非営利活動法人 全国在宅リハビリテーションを考える会 理事長 安倍 浩之 様

「社会的価値を持った活動」の掘り起こしと「見える化」

本社の規模拡大に伴う組織の脆弱化を危惧し、平成26年度社内テーマを「原点回帰」としたタイミングで、平成26年4月26日、NPO 全国在宅リハビリテーションを考える会 中央定例会(名古屋市)にて、アデランス箕輪 様より「事業と一体化した戦略的 CSR」のご講演を拝聴しました。心の琴線に触れるというのはこういうことかと思い、早速、本社公開型社内研修会を開催。社内の「社会的価値を持った活動」を組織横断的に掘り起こし、「見える化」した社会的価値を社員に伝えることが目的でした。研修会終了直後からこれまでにない社員の一体感や活気、そして責任感が醸成されました。

グンゼ株式会社とのコラボレーション

グンゼ株式会社は、時代の変化にも対応しながら100年以上の歴史を持つ繊維業界の老舗企業です。CSR に対する真摯な姿勢を貫いている同社と、経営倫理実践研究センター(BERC)で出会うことができました。両社それぞれの歴史や活動への取り組みを通じて、今後コラボレーションとして連携して取り組むことができないか、検討しています。



グンゼ株式会社 CSR 推進室室長 兼 人事・総務部 女性きらきら推進室室長 林 直子 様

コラボレーションは新しい価値を提供できるチャンス

アデランス社の箕輪様と伴仲様が、グンゼ本社のある綾部に生まれ、そこでの歴史資料ご見学の後、当社の開発担当と自由な意見交換をしていただき、ワクワクした一日でした。アデランス様の経営理念とお二人から感じられる熱い風土は私どもにとって大変魅力的です。CSR から始まったご縁に感謝しつつ、異なる文化がふれあうことで、当社だけでは成し得ない新しい価値をお客様に提供できるチャンスと期待しております。



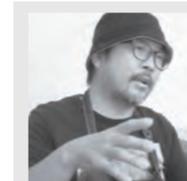
NPO 法人 JHDAC への協力

アデランスは、病気などでウィッグを必要とする子どもたちに無償提供している特定非営利活動法人 Japan Hair Donation & Charity (JHDAC) の活動に賛同し、CSR 活動の一環として同活動への協力を開始しました。

今回の協力では、アデランスサロンの個室を、ウィッグの製作に必要な採寸(頭のサイズの計測)や完成したウィッグのお

渡しなど、ウィッグを希望される方の支援場所として提供します。また、JHDAC のウィッグをご利用されている方を対象に、シャ

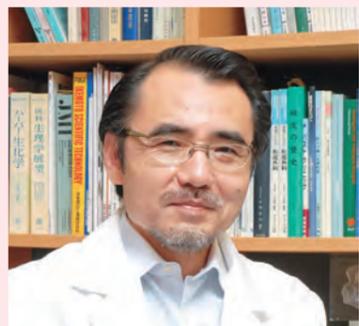
ンプーや自髪のカット等のサービスを割引価格で提供し、アフターケアをサポートすることになりました。



特定非営利活動法人 JHDAC 事務局 局長 渡辺 貴一 様

ウィッグ業界と美容業界の新たなコラボレーション

ウィッグ業界最大手のアデランス様が、「頭髪に悩みを抱える子ども達」に、ウィッグを35年以上継続して提供してきた実績と熱意に賛同する形で、今回の協業が実現したことは、非常に光栄なことであると感じています。アデランス様と美容業界のコラボレーションは、全く新しい頭髪文化の到来を予見せしめると共に、「人類の宝である子ども達」の未来に寄与する希望の一助となりうると確信しております。



倉田 莊太郎 医師  
アデランス メディカルアドバイザー  
別府ガーデンヒルクリニック くらた医院 院長  
日本臨床毛髪学会 常任理事  
日本臨床皮膚外科学会理事  
P&G パンテーン 顧問医師  
日本皮膚科学会  
日本美容外科学会  
国際毛髪外科学会 等

世界トップレベルのアデランスの研究開発

いレベルでの追求が続けられており、さらに高機能な製品が開発されるものと思います。

また、大阪大学の皮膚毛髪再生医療講座はアデランスの寄附講座として開設され、9年が経ちました。この間、板見教授、乾准教授により、世界トップレベルの研究成果をあげ続けています。板見教授は、世界中で注目されている毛髪研究者の一人で、男性型脱毛症の発生機序、育毛剤開発、狭帯域赤色 LED の育毛作用、円形脱毛症の治療など多くの毛髪に関する研究成果を世に送り出しています。ウィッグの QOL について研究した、最近の発表では、これまでウィッグの効果は科学的に表現しづらかったものを、大阪大学で科学的に検証・評価し、ウィッグの社会的価値を大いに高めたと言えます。

現在、東京大学の真田教授の元で、抗癌剤患者さんに対するウィッグの QOL 評価を研究して頂いてい

ることも、更に社会に対してウィッグが如何に重要な医学的サポート役を担っているかを示すことができ、将来医療用ウィッグが公的補助を受ける可能性も視野に入れた活動が可能となりました。

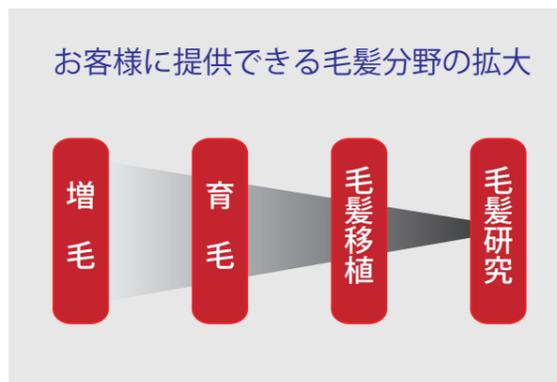
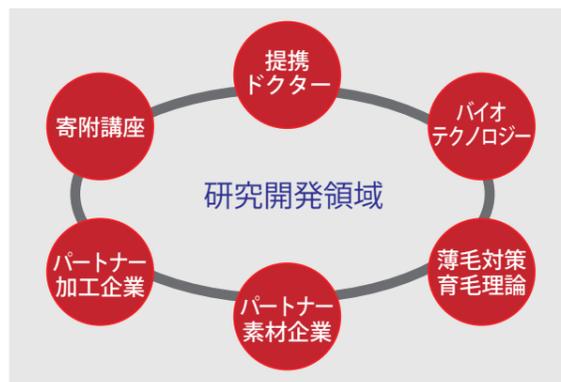
女性の乳がん患者さんの抗癌剤脱毛は社会問題となるほど頻度も高く、精神的苦痛も大きいものです。これらの症状を緩和できる方法は今まで極めて難しかったのですが、大分大学の北野学長、外科学講座の猪股教授とアデランスで進めた抗癌剤脱毛抑制に関する共同研究は、今後世界でも注目される可能性を秘めています。

このようにアデランスの共同研究体制は、他社に類を見ないほど多岐かつ高レベルの研究成果で、社会へも大きな還元ができ、その社会的価値は極めて高いと言えます。今後、現在の体制を維持・発展させることがアデランスにとって最重要課題と考えられます。

私がアデランスの研究開発と共同研究に関わりを持ち始め、早6年になりました。

アデランスの毛髪事業は本当に広い範囲にわたります。まず、東京工業大学との人工毛髪の研究は1983年に行い、他社に類を見ない人工毛髪を開発を成功させてきました。これからの人工毛髪は更に高品質化が求められ、人毛を超えた人工毛の開発が急務です。その点、アデランスの研究は世界的に見ても高

アデランスグループは、大学研究機関等と様々なテーマの共同研究を進め、毛髪分野に関する新たな知見を探っています。アカデミックな助言や裏付けの取れたデータを元にした育毛や毛髪研究の成果などを活用し、商品力を高めることでお客様の喜びの輪を広げていきたいと考えています。



毛髪関連事業を通じて、人々の暮らしを豊かにすること。それがアデランスグループの研究開発ポリシーです。時代とともに変わる、お客様の毛髪に関する悩みに応えるため、今後も積極的な研究開発を進めています。

人工毛髪の新たな挑戦

多くのオーダーメイド・ウィッグには人毛が使われています。当社では、将来おこりうる人毛枯渇を想定し、安定的にウィッグ商品を提供するために、1983年より人工毛髪の研究をスタートしました。

1987年に人毛のキューティクルに近似する表面形状として、ナイロンの特性を生かした球晶による疑似キューティクルを表面に形成させ、色あせがなく、スタイル保持に優れた人工毛髪の開発に成功。1991年より「サイバーヘア」の名称で商品化し、発売を開始しました。サイバーヘアは海外でも評価が高く、ヨーロッパで世界的権威「モンドリアル コワフェール ポータ2002」でイノベーション大賞を受賞しています。

さらに、雨や洗髪、空気中の水分などで変化する天然毛髪の風合いを表現できる「バイタルヘア」の開発にも成功し、2006年より商品化しました。当

社の人工毛髪はナイロンやポリエステルで、焼却しても汚染物質が発生しにくく、環境へのやさしさにも配慮しています。

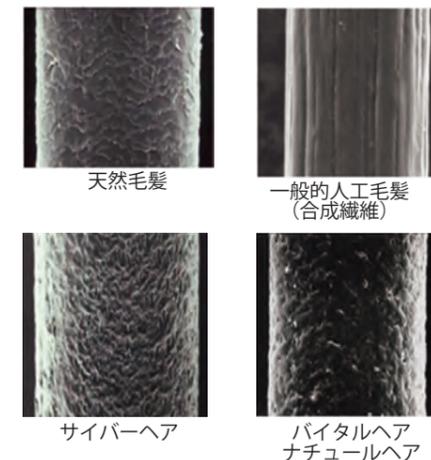
そして現在、「サイバーヘア」や「バイタルヘア」よりもさらに天然毛髪に近い風合いと更なる機能付加を目指して、新たな人工毛髪の研究開発に着手しました。

当社では、これまで10年間にわたり東京工業大学大学院理工学研究科有機・高分子物質専攻の鞠谷雄士(=きくたにたけし)教授から、人工毛髪の原料となるナイロンやポリエステルなど高分子素材、及びその特性についての研究開発支援を受けてきました。2006年に製品化した「バイタルヘア」(特許登録番号第5127443)では、構造上の最大の特徴でもある「芯・鞘構造」の設計など数多くの協力を頂いています。

今回、さらに進化発展した人工毛髪を開発するため、東京工

業大学と新人工毛髪の研究・開発に関する学術契約書を締結することとしました。これまで進めてきた研究開発をさらに進め、次世代の人工毛髪開発に取り組んでまいります。

より人毛に近い人工毛髪の実現により、アデランスグループでの人毛使用率は極めて低く、人毛供給における社会的課題の対応策の一つと考えています。



東京工業大学大学院  
理工学研究科  
鞠谷 雄士 教授

人工毛髪でより自然な髪質を再現

人工毛髪の製造技術は匠の世界です。見た目も使い心地も、如何に人毛に似せたものを創るかという目標の下、日々研究開発が進められています。その背景には高分子科学、高分子成形加工学という技術的基盤があります。

今求められているのは、個々の顧客の髪質に限りなく合わせた人工毛髪を製造できる、懐の深い技術です。まだまだやるべきことは沢山あります。



株式会社アデランス  
研究開発部 新人工毛開発チーム  
八木 専吉  
関 正敏 課長代理  
菅原 文隆 (左から)



津村 佳宏  
株式会社アデランス  
代表取締役専務 COO

医療用ウィッグの JIS 規格の意義

今回の JIS 規格は 2012 年よ  
り、根本会長兼社長より、業界  
のリーダーとして、医療用ウィッ  
グの保険適用を推進すると指令  
があり、直ぐに社内プロジェクト  
を組みました。薬の副作用によ  
る脱毛の患者様を支援する各  
NPO 団体様などと面談し、その  
苦しみを改めて痛感致しました。

毛髪業界としての CSR を推進  
すべく、経済産業省様や日本毛  
髪工業協同組合様と協議し、先  
ずは医療用ウィッグのガイドライ  
ンが制定され、JIS 規格となりま  
した。今後は脱毛症に悩む方々  
をサポートすべく、業界と共に医  
療用ウィッグの保険適用を目指し  
てまいります。

世界初のウィッグの国家基準化 医療用ウィッグ JIS 規格制定

日本毛髪工業協同組合が申請した JIS 原案が経済産業省の審議を経て、2015 年 4 月 20 日、ウィッグとしては世界初の国家基準として制定されました。JIS 規格化（規格番号：JIS S 9623）にあたって、アデランスグループは、業界のリーダーとして中心的な役割を担ってきました。

全 20 製品の JIS 規格 自己適合宣言

アデランスグループでは医療用ウィッグの JIS 規格が制定されたことを受け、当社製品の適合調査を進めた結果、医療用ウィッグブランド「Rafla（ラフラ）」を含む全 20 製品が「JIS S 9623」の規格要求事項に適合していることが判明しました。これを受けて、「JIS S 9623」への自己適合を宣言しました。今回の自己適合宣言により、医療用ウィッグを必要とするお客様に「安心」を提供してまいります。



内閣府認定  
公益社団法人  
日本毛髪科学協会  
専務理事  
坂口 洋 様

公益事業の発展に期待

医療用ウィッグ JIS 規格制定に伴い、アデランスは間髪入れずに適合品を世に出しました。敏感肌の患者様は勿論、当協会の専門病院・理美容師等にも福音となります。公益事業の発展を願い、当協会賛助会員企業の理事の一人としてアデランス部長・伴仲道憲氏が就任されています。今後も既存の視点との相乗効果を生み、協会発展に寄与することを期待しております。



株式会社アデランス  
CSR 推進部長  
箕輪 陸夫



株式会社アデランス  
管理本部 部長  
伴仲 道憲



株式会社アデランス  
広報 IR 部 副長  
松岡 博之



株式会社アデランス  
生産管理部 課長代理  
佐藤 貴

欧州視察がきっかけ

根本会長が欧州を視察された際、医療用ウィッグに公的助成があることを知り、「日本でもぜひ進めてほしい」との会長の言葉が本プロジェクトの始まりでした。今回の JIS 規格化には、当社内のさまざまな社員が関わり、それぞれのメンバーの努力で実現したプロジェクトだと感じています。

お客様に安心を

医療用ウィッグが、医療費控除を受けるには、公的基準が必要という厚生労働省からの回答により、今回の規格化の取り組みが始まりました。抗がん剤の脱毛で、気持ちが揺れている不安なお客様に、安心できる商品をお届けできるようになったことは感慨深いものを感じます。

会社のよさを再確認

社内プロジェクトがスタートして 2 年。業界団体や有識者、経済産業省、消費者代表の方などの外部と連携して JIS 規格化が実現しました。医療用ウィッグの国家規格化は世界初です。患者様が、安心して、安全に使用していただけるために取り組んでいきます。

日ごろの姿勢がこの結果を生み出した

今回の JIS 規格化を進めるにあたって、当社は新たに商品開発することなく、当社商品「ラフラ」が検討商品として評価され、肌にやさしい加工など、お客様視点での商品設計に、周囲から高い評価をいただきました。当社の日ごろの商品作りの意識の高さを再認識しました。

アデランスの医療事業活動

近年、乳がんをはじめとして、がん患者さまの数は増加傾向にあります。治療により脱毛を余儀なくされるケースも少なくなく、ウィッグは社会復帰や脱毛による精神的ストレスを軽減させる手段として求められています。アデランスグループの持つ理美容の技術やウィッグで患者様をサポートできないかと考え、2010 年に医療事業推進部を設立し活動をスタートしました。

病院内ヘアサロン

アデランスは、病院内に理美容室（病院内ヘアサロン）を開設し、脱毛に関するご相談対応をはじめウィッグの提供からアフターケア、理美容技術サービスまで提供しています。2002 年より開設し、現在では全国で

24 店舗になりました（2015 年 8 月現在）。また、バリアフリーを実現し、車イスでの来店が可能だけでなく、移動の困難な患者さまにもサービスを提供できるように、移動式の理美容イスも導入しています。



アデランスの医療用ウィッグ

アデランスは、病気や治療によるデリケートな髪の悩みを抱える方のためにレディメイドの医療用ウィッグ「ラフラ」を 2005 年に発売しました。そして 2010 年には、通気性とフィット感を両立したオーダーメイドの「ラフラ・

アイフィット」を発売しました。現在では、レディメイドの「メディケアスワニー」、「ピリラフラ」、オーダーメイドの「ラフラ・アイフィット・プラス」や「ラフラ・フィット」などがラインナップに加わりました。



介護施設でのシャンプー講習

アデランスは、「自社の強みの理美容技術」を生かし、介護施設職員向けのシャンプー研修を実施しています。介護系事業に従事する看護師や介護士は、現場での入浴サ

ポートを日常的に行っているものの、シャンプー教育を受けたことがなく、洗髪の不手際によって施設利用者からクレームを受けることも多くあります。当社のシャンプー研修では、

施設利用者の洗髪が、より笑顔になるように、シャンプーにおける配慮ポイントや、当社が培ってきたノウハウの実技講習を行っています。



株式会社アデランス  
中京営業部長  
鈴木 実

「親切シャンプー」研修

介護サービスのひとつに『保清』と言われる、入浴・洗髪・爪切り・口腔ケアなどの身体の清潔を保たせるためのサポート業務があります。意外なことにシャンプー教育は受けてなく、今回ジェネラス社からの要請で講習を行いました。参加されたジェネラス社のスタッフの皆さんも真剣でアデランスの技術が役立てた講習になったと思います。

笑顔を生む企業コラボ

利用者様に笑顔になっていただけるシャンプー、「あー気持ちよかった」と言っていただけで笑顔になるスタッフ。そんな思いにアデランス様の方々が真剣に伝えてくださいました。株式会社ジェネラス 代表取締役 小山 樹 様



# 社会・地域貢献

アデランスグループの商品をご利用いただくお客様以外にも、毛髪関連事業を通じて、社会に広く笑顔やよろこびを広げることができないかと考え、国内外で様々な活動に取り組んでいます。



## 35年超続く、 笑顔とよろこびを広げる アデランスのCSR活動の原点

アデランスは、1978年から「愛のチャリティキャンペーン」を実施しています。以来35年超続く取り組みで、「お子さまの髪の毛の悩みを心の傷にしないために」をテーマに、病気やケガなどの理由で脱毛に悩むお子さま（4歳から15歳まで）が笑顔を取り戻していただくため、オーダーメイドウィッグをプレゼントしています。

2012年9月には、クリスマス限定キャンペーンから通年チャリティに変更し、2014年からはレディメイドウィッグのプレゼントも開始いたしました。

年度	贈呈数
2012年	123個
2013年	178個
2014年	277個



株式会社アデランス  
美容室こもれび  
静岡県立静岡がんセンター店  
店長 三森 妙子

### 1人でも多くの笑顔を見たい

仕上がったウィッグを付けた瞬間、少し照れくさそうに見せてくれた無邪気な笑顔は、周囲の人も笑顔にしてくれます。治療の苦痛に加え、脱毛という体にも心にも傷を負ったお子さんが、ウィッグによって1人でも多く、笑顔を見せてくれるよう、37年続いている愛のチャリティを通じて、これからもそのお手伝いをさせて頂きたいと思っております。

## 活動報告



### My New Hairへの支援

アデランスUKは、世界的ヘアスタイリストのトレバー・ソルビー氏が行う「My New Hair」活動を支援しています。抗がん剤等の脱毛に悩む患者様を支援するため、ウィッグの提供と美容師へのカット指導を行っています。



### タイの病院等へのウィッグ寄贈

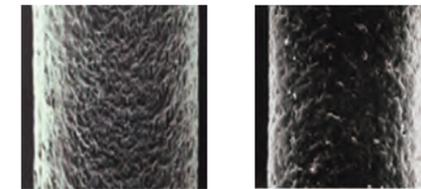
アデランスグループは、タイ工場での試作ウィッグを現地の病院等に寄贈しています。過去には試作ウィッグを運用上の問題で廃棄していましたが、問題が解決され2012年よりタイの病院等に寄贈しています。



義援金を寄付する金子工場長(左)

### フィリピン台風被害への支援

アデランス・フィリピンは、2013年のフィリピン台風被害の被災者に対し、地元の赤十字社に義援金を寄付しました。また、テレビ局に対して、社員から集めた募金などを寄付しました。



サイバーヘア

バイタルヘア  
ナチュラルヘア

### 人工毛髪によるCSR調達の推進

アデランスは、無理な人毛調達を回避するため、人毛に劣らない人工毛の開発・製造を行っています。一般のウィッグには人毛が使われている中で、アデランスでは1983年より人工毛髪の研究に着手し、サイバーヘア等として商品化しています。



### 職場環境の充実度で表彰

アデランス・フィリピンは、2013年にフィリピンの労働省管轄のMDG ACHIEVEMENT FUNDから、従業員に対する職場環境の充実、福利厚生面での促進、従業員の家族に対して配慮されているとして表彰されました。



### 国連グローバル・コンパクト署名

アデランスは、2014年4月に「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。広く社会に貢献するグローバル企業として、社会的課題に自社の強みを生かして取り組み、持続可能な社会の実現に努力してまいります。



## One World プロジェクト

### 東日本大震災支援

#### 「One Worldプロジェクト」でウィッグお手入れ支援サービス

アデランスは、東日本大震災で被災されたがん患者様向けに、ウィッグのお手入れ支援サービスを継続しています。2012年7月からスタートし、ウィッグのお手入れ等を通常価格の半額で提供しています。



### NPO法人とのコラボレーション

アデランスは、特定非営利活動法人などのコラボレーションを進めています。「全国在宅リハビリテーションを考える会」でのCSR活動の講演やシャンプー研修の実施、「Japan Hair Donation & Charity」への店舗スペースの提供等を行っています。

— 7つの中核主題 —

- 組織統治
- 労働慣行
- 公正な事業慣行
- コミュニティへの参画及び発展
- 人権
- 環境
- 消費者課題

事例詳細はCSRサイトをご覧ください。

日本語 <http://www.aderans.com/csr/>  
English <http://www.aderans.com/english/csr/>

# お客様の安心・安全

アデランスグループでは、「私たちが目指すもの」として「心からのおもてなし」を経営理念の一つとして掲げ、お客様の満足と信頼を高めていくために、グループ一丸となって取り組んでいます。



## 病院内理美容室(ヘアサロン) 様々なお客様のご要望にも対応

病院内に理美容室を展開し、店舗のバリアフリー化や車イスに乗ったままカットやシャンプーができる移動式理美容イスの全店導入などを行い、病気や治療によるデリケートな髪の悩みを抱える患者様にさまざまなサポートを行っています。

患者様の中には、車イスから理美容イスへのわずかな高さの移動が難しい方もおられます。こうした患者様の体調に配慮したいという理美容サロンの現場からの声から、移動式理美容イスは生まれました。座ったままカットやシャンプーができる移動式理美容イスの導入は、当社の患者様を思う真摯な姿勢として、病院関係者から評価されました。

### 病院内ヘアサロンの海外展開

日本で評価の高い病院内ヘアサロンを、スウェーデンへ2011年から導入し始めています。今後、欧州だけでなく米国への展開を予定しています。

### 病院内ヘアサロンとスタジオADとのコラボ

芸能分野で培ったノウハウをもつスタジオADのヘアメイクアップアーティストによるメイク講習を、病院内ヘアサロンのスタッフ会議で実施しています。メイクにより顔の印象がどのように変わるかを実際に体験し、そのメイクの方法をお伝えしています。

病院内ヘアサロンとスタジオADとの社会的価値が結びついた、新たな取り組みを始めています。

## 活動報告



### AIU損害保険との提携

アデランスは、2014年3月にAIU損害保険株式会社との提携を開始しました。医療向けウィッグの購入費用を補償する保険を通じて、がん治療の副作用の脱毛で悩まれる患者様のQOLの維持・向上を支援することを目的としたものです。



### 社内研修でのCSR

アデランスは、年間研修プログラムの中にCSR研修を組み込んでいます。新入社員/中途入社社員研修、レディメイド研修等においてCSR研修を行い、企業の社会的責任への理解を深める努力をしています。

「アデランスに出会えて良かった!」  
と言われるように

「企業は人なり」という言葉があります。「接客力」や「技術力」によりお客様の要望に応えられ信頼される社員が多くいることが、アデランスの強みになると考えます。お客様から「アデランスに出会えて良かった!」と言われるような社員を、これからも多く育てていきたいと思っています。



株式会社アデランス  
教育指導部 次長  
植野 真也



### お客様の声から商品開発 〜「泡シャンプー」〜

アデランスは、弱酸性・低刺激性の泡シャンプーを開発しました。抗がん剤などによる脱毛の患者様は、通常のシャンプーでは液ダレが起きてしまい、「最初から泡のシャンプーがほしい」という現場の看護師の声があったからです。



### 医療用ウィッグ接客のために

アデランスは、医療用ウィッグの接客にあたるスタッフ全員が患者様の適正な接客を行えるよう、医療講習の受講を義務付けています。がん患者サービス事業会社であるVOL-NEXT社により実施され、累計で1,800名以上の社員が受講しています。



### 技術者認定試験の実施

アデランスは、社内資格として、技術者認定試験を行っています。経営理念にある「最高の商品」「最高の技術」「心からのおもてなし」を業務遂行するために、必要不可欠な知識・技術・接客等について、総合的に審査のうえ、その力量を認定するために実施しています。



### ISO9001の取得

アデランスグループの主要生産拠点であるタイ工場は、1999年にISO9001(国際品質管理規格)を取得しています。ISO9001の基準を遵守し、安定した製品品質で製造しています。

### 毛髪診断士の資格取得

アデランスは、毛髪と皮膚の専門的な知識をお客様へ正しくお伝えできるように、毛髪診断士(日本毛髪科学協会)の資格取得を推進しています。現在では社内の取得者は300名を超え、業界トップの人数であるとともに、新たに6名が認定講師資格を取得しました。

### 海外で毛髪診断士資格を活用

私は昨年、育毛についてより正しい情報、深い知識をお客様に提供したいと考え、毛髪診断士の資格を日本で取得しました。

アデランス社では毛髪診断士の資格保持者が既に300人以上もおられ、認定講師は6人も抱えていると聞き、とても驚きました。全社を挙げて毛髪専門資格に取り組む姿勢と、社会的責任に対する思いの強さを感じました。



タカヘアサロン(アメリカ)  
玉田 尚子 様

— 7つの中核主題 —  
組織統治 人権  
労働慣行 環境  
公正な事業慣行 消費者課題  
コミュニティへの参画及び発展



事例詳細はCSRサイトをご覧ください。

日本語 <http://www.aderans.com/csr/>

English <http://www.aderans.com/english/csr/>

# 環境への取り組み

アデランスグループは、環境負荷の削減を企業の社会的責任の一つと考え、商品の環境対応や事業所での環境負荷の低減など、経済と環境が両立する持続可能な社会を創造できるよう、「低炭素社会」「循環型社会」「自然との共生」に配慮した活動に取り組んで参ります。



## ウィッグの回収と植林を結ぶ フォンテーヌ緑の森 1000本以上を植林

2009年より「フォンテーヌ 緑の森キャンペーン」として、環境コミュニケーション企業である「ツバルの森」を通じ、国内の山に木を植える活動を行っています。現在7年目を迎え、累計1,000本以上の植林実績を残しています。

この「フォンテーヌの森」の取り組みは、英国レスター大学のワグナー教授に「環境保護という社会貢献と売上という経済活動をうまく組み込んだもので、継続性を併せ持ったとてもユニークな活動である」と高い評価をいただき、英国のビジネスジャーナルに先進的なケーススタディとして取り上げられます。



### お客様にもスタッフにも 定着しています

古いウィッグの処分に困ったお客様の声からスタートしたこのキャンペーンは、お客様にも定着し、毎年心待ちにしている方も多くいらっしゃいます。お客様にとってもお得感があり、環境にも優しいエコキャンペーンに、店舗スタッフ全員で積極的に取り組んでいます。今後もエコキャンペーンのご案内を、毎年続けていきたいと思っています。

株式会社アデランス  
高島屋横浜店  
フォンテーヌコーナー  
チーフアドバイザー  
吉高 弓恵

## 活動報告



### ISO14000の取得

アデランスグループの主要生産拠点であるタイ工場は、1999年にISO14001(国際環境管理規格)を認証取得しています。国際規格に基づくさまざまな環境配慮の取り組みを実施しています。



### 節水用シャワーヘッドの導入

アデランスは、店舗に節水用シャワーヘッドを導入しています。このシャワーヘッドの導入により、水道水の節水や温水化するためのCO<sub>2</sub>削減に効果を発揮しています。



### 3Dスキャナーによる型取り

アデランスは、新たな型取りシステム導入をしています。これにより、フィッター使用を削減できるとともに、フィッター輸送が不要となることでエネルギーの軽減につながり、環境にやさしい対応ができるようになりました。



### タイ工場での植林

アデランスグループの主要生産拠点であるタイ工場は、工場敷地内に植林を行っています。ウィッグ製作時に生じる廃材をリサイクル業者へ売却し、その収益で工場敷地内の植林を行っています。



### ウィッグ製作時の廃材の利用

アデランスグループの主要生産拠点であるタイ工場は、ウィッグ製作時に発生する廃材の有効活用に取り組んでいます。廃材を利用し、造花、車拭きやクッション、サンダルなど多種多様な活用を行っています。



### LEDを活用した店舗へ

アデランスは、多彩なスタイルのウィッグを数多く展示する「スタイル・ミュージアム」の店舗への導入を進めています。「スタイル・ミュージアム」では、照明のLED化など消費電力の低減を図り、環境負荷が軽減した店舗造りを行っています。



### ウィッグの廃棄

アデランスは、お客様より回収したウィッグは、環境に配慮した適正な廃棄を行っています。産業廃棄物処理会社(JFE環境 川崎エコクリーン工場)と契約し、CO<sub>2</sub>の削減に努めるなど、環境に配慮する形で進めています。



### 適正な廃棄物処理を サポートしていきます

弊社は、JFEグループの技術力を結集した総合リサイクルカンパニーです。廃棄物の処理においては、お客様のプライバシーを守り、適正に処理を行うことで、安心と信頼を得ております。アデランス社は環境に配慮し、回収したウィッグを弊社処理工場において適正に廃棄することに取り組んでおり、その真剣な姿勢に対して今後もサポートいたします。

JFE環境株式会社  
鶴見セクター 鶴見本部  
サーマルリサイクル事業部  
川崎エコクリーン工場 工場長  
倉田 亘 様

- 7つの中核主題
- 組織統治
- 労働慣行
- 公正な事業慣行
- コミュニティへの参画及び発展
- 人権
- 環境
- 消費者課題

事例詳細はCSRサイトをご覧ください。

日本語 <http://www.aderans.com/csr/>  
English <http://www.aderans.com/english/csr/>

# 学術・文化活動

アデランスグループは、「笑顔」や「よるこび」あふれる社会の実現をめざし、当社の強みを活かせる「毛髪・ウィッグ」領域での活動に重点を置いています。



写真提供：東宝演劇部 2015年公演より

## ウィッグとヘアメイクのエキスパート集団スタジオAD

アデランスの文化芸能部門であるスタジオADは、ウィッグを多彩な文化活動に提供することで、ウィッグの持つ可能性を広げています。

アデランスグループ独自の芸能用ウィッグは、「オペラ座の怪人」、「美女と野獣」といった日本を代表する舞台芸術に採用され、その他さまざまな映画やテレビ、コンサートなどにおいても使用されております。

2015年には、上演15年を迎える東宝ミュージカルの代表作『エリザベート』や名作舞台である『放浪記』などに、ウィッグ製作技術協力をしました。



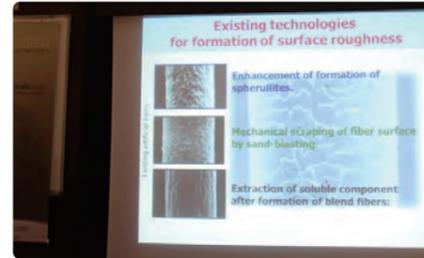
東宝株式会社  
取締役 演劇担当  
池田 篤郎 様

### 「多くの人々に夢と感動を提供」

1963年、日本初のブロードウェイミュージカル『マイ・フェア・レディ』を弊社が製作し、その歴史の礎を築いてから半世紀。今やミュージカルの世界では、多くの優秀なスタッフ・キャストが集い、舞台設備の技術革新も伴って、そのクオリティーは大きく向上しました。

劇場空間やそこで生み出される演劇作品においては、多彩な演出表現を可能にし、我々がお客様にお届けする演目も日々進化を遂げております。アデランス様のウィッ

## 活動報告



### アカデミック機関との共同研究

アデランスグループは、大学等のアカデミック機関との共同研究等で、毛髪分野に関する新たな知見を探っています。日本では、大阪大学、東京大学、東京工業大学、大分大学などに寄附講座や共同研究を行っています。



### 国際文化交流公演に協力

アデランスは、2015年5月に、早稲田大学が主催する国際文化交流公演に協力しました。その際、カザフスタン国立アルマティ・バレエ学校の関係者に、当社が舞台芸術で築き上げてきたエンターテイメントウィッグについて、紹介しました。

### という両者の共通理念

グは、『エリザベート』を始めとする大型ミュージカルから『放浪記』のような心に迫る名作舞台まで、幅広いジャンルで俳優から大きな信頼を得て、その自然な風合いと、ヘアメイクスタッフの高い技術力により、各作品をとっても豊かなものに仕上げていると語っております。

「多くの人々に夢と感動を提供する」というアデランス様の経営理念は、まさに弊社の理念とも共通しております。グローバルに広がっているアデランス様の毛髪事業やCSR活動の発展の一助として、今後も共により良い舞台製作を続けていきたいと考えております。



### 輝く女性の応援 書道家 永田紗戀 様

アデランスは、文字と絵を組み合わせた、独特の書画「花咲く書道」で評価の高い、女流書道家・永田紗戀様に、ウィッグの提供を行っています。また、当社カレンダーやポスターなどに、永田様から作品を提供いただいています。



### 第19回日本臨床毛髪学会学術集会のセミナーを共催

第19回日本臨床毛髪学会学術集会(2014年11月)で、当社寄附講座である大阪大学の乾重樹准教授が、「フラーレンが拓く皮膚と毛髪の新しいナノ医学治療」のセミナーを講演しました。



冴木杏奈様(左)と北本課長代理(右)

### 輝く女性の応援 タンゴ歌手の冴木杏奈様

冴木杏奈様がパーソナリティのラジオ番組「杏奈カフェ」が、放送200回を迎えた記念にリスナーズパーティーが開催されました。ステージウィッグとして「フォンテーヌウィッグ」を提供しており、当社のデザイナーとのトークも挟みLIVE演奏を行いました。



### 学術研究団体への協力

アデランスは、学術研究団体での事例研究等に「事業と一体化した戦略的CSR」が取り上げられ、講演会等での事例発表等を行っています。また、事例発表の場が専門誌や書籍等への執筆活動等にも広がっています。



### 放送大学講座への講演

「新しい時代の技術者倫理」という放送大学の講座に、技術者倫理事例として、アデランスが取り上げられました。放送では、代表取締役専務COO 津村佳宏が当社のCSR経営について語り、CSR推進部長 箕輪睦夫がCSRの実際の活動について紹介しました。

### 冴木杏奈さんの個性を引き出す

ウィッグデザインを決める際には、必ず衣裳を確認させていただき、衣裳にあったイメージのウィッグをご提案しています。また、舞台等でご使用の場合は、衣裳チェンジ、ウィッグチェンジがありますので、復元性の高いデザインを心掛けています。

冴木さんはウィッグスタイルだけでなく、とてもウィッグのカラーにもこだわる方なので、メッシュカラーであったり、口ロックのような特殊なカラーをセレクトして更に、冴木さんの個性を引き出すように、カット・スタイルアレンジをしています。

株式会社アデランス  
FN営業企画部 課長代理  
北本 典子

- 7つの中核主題
- 組織統治
- 労働慣行
- 公正な事業慣行
- 消費者課題
- 環境
- コミュニティへの参画及び発展

事例詳細はCSRサイトをご覧ください。

日本語 <http://www.aderans.com/csr/>  
English <http://www.aderans.com/english/csr/>



# 海外での取り組み

現在、アデランスグループは、世界 16 カ国で事業を展開しています。各国の海外子会社においても、国内の CSR の取り組みと連動して、「笑顔を広げる」活動を実施しております。

United Kingdom



## 英国自転車競技 ジョアンナ・ロウセル選手への ウィッグ寄贈

アデランス UK は、著名な英国自転車競技選手で、脱毛症の患者でもある、ジョアンナ・ロウセル選手の結婚式にオーダーメイド・ウィッグをプレゼントしました。

ジョアンナ・ロウセル選手は、2012 年のロンドンオリンピックで金メダルを獲得し、2013 年に大英国勲章 MBE の叙勲を受けています。また、ロウセル選手は、10 歳のころから脱毛症に苦しんでいました。彼女は多くのインタビューの中で、その状態について公言しています。

ロウセル選手とアデランス UK 社との出会いは、オリンピックのセレモニーの際に使用するウィッグを求めてロンドンのお店にいらしたときでした。結婚式は 7 月に執り行われ、ウィッグをつけたジョアンナさんの写真が英国の人気雑誌「Hello」誌に取り上げられ大きな話題となりました。さらに、ウィッグをつけたご自身の写真とウィッグを提供してくれたアデランスについても発信し、反響を呼びました。



### オリンピック金メダリストへの ウィッグの寄贈

アデランスUKは、トレバー・ソルビー氏が抗がん剤による脱毛に悩む患者様を支援するチャリティー活動「My New Hair」で、美容師に対するウィッグのカット指導を行っています。また、同社は脱毛症の金メダリスト、ロウセル選手に対し、ロンドンオリンピックのセレモニーにおいて女性として輝いてほしいと、ウィッグを提供しました。

アデランス UK  
ゼネラルマネージャー  
リン・ハリス

Thailand



## タイの病院等へのウィッグ寄贈

アデランスグループの生産拠点の一つであるタイ工場は、病院等へウィッグを寄贈しています。工場で作成したウィッグは、これまでは運用上の問題で廃棄していましたが、2012 年より、寄贈し、病院で利用いただけるようになりました。



アデランス・タイ  
ゼネラルマネージャー  
赤塚 均

### ガン患者様へのかつら寄贈

ガン患者様へウィッグ寄贈を行うことになってから、今年で 4 年目となりました。毎年、ガン患者から感謝と喜びに満ちた笑顔を見舞うたびに社員一同「皆様に喜んで頂けるかつらを作製して行こう！」と心が引き締まる思いです。

また、今年には日本のアデランス社員も寄贈式に参加しました。参加した社員も「グループ工場でのこのよう社会貢献を行っている事を誇りに思う！」と感動していました。

## ウィッグ製作時の廃材の利用

アデランスグループの生産拠点の一つであるタイ工場は、ウィッグ製作時に発生する廃材を活用した取り組みを行っています。

廃材をリサイクル業者へ売却し、その収益で工場内に植林を行ったり、廃材を再利用し、造花、車拭きやクッション、サンダルなど多種多様な活用に取り組んでいます。



Laos



## ラオス「サワンナケート工場」本工場の稼働

アデランスは、ラオス「サワンナケート工場」本工場を新設しました。この稼働に先立ち、2015 年 7 月 24 日にラオス国民議会副議長や在ラオス大使などにご臨席いただき、記念式典が行われました。

ラオスはタイ語が通じるため、タイで 20 年以上培ったウィッグの技術をラオスの人に教育することができます。また、本工場の稼働により、今後新たな雇用が創出され、2017



Sweden



## 病院内ヘアサロンの海外展開

アデランスグループは、病院内ヘアサロンをヨーロッパへ展開し始めています（スウェーデンやオランダなどに 6 店舗 2015 年現在）。病院内ヘアサロンという日本のビジネスモデルがグローバルに広がっています。



事例詳細は CSR サイトをご覧ください。

日本語 <http://www.aderans.com/csr/>

English <http://www.aderans.com/english/csr/>

# ステークホルダー・ダイアログ

昨年に引き続き、経営倫理実践研究センター（BERC）首席研究員である田中宏司先生を、外部の有識者としてお招きして「ステークホルダー・ダイアログ」を実施しました。今回は、津村代表取締役専務 COO のほか、陰山東日本統括部長、そして東京、関東の4営業部長を交え、箕輪 CSR 推進部長を加えた8名で対談を実施しました。（実施日：2015年8月7日）

津村：当社は、2011年から事業と一体化したCSR活動としてスタートしました。大幅な赤字を計上し希望退職も募った激動の年で、多くの社員が去っていきました。そうした中で箕輪部長がCSRプロジェクトを立ち上げ、過去からのCSR活動を掘り起こし、小冊子やCSRレポートで「見える化」していきました。そして、残った社員たちに小冊子を配って説明すると、社員の間では「会社ではこんな良いことをしているんだ」とわかり、帰属意識も高まり、企業の存在価値、存在意義を見つめ直すことができました。

田中：CSR部やCSR推進室が旗を振ってもなかなか動かない会社が多い中、アデランスは他社と違い、営業現場が中心となり大きなうねりとなって動いています。CSR活動を推進し会社が成長することで、自分たちも良くなるのがわかってくるのです。

津村：会社の中で一番大切なのは社員とその家族であり、次に大切なのは取引先やパートナーとその家族です。そしてお客様、地域社会、最後に株主です。この考えは田中先生から教えていただきました。社員と取引先の人たちが頑張ることで、良い商品、良いサービス、良い接客が生まれ、お客様はファンになります。良い会社であれば業績も伸び、株主へ配当で報いることができるのです。このことを理解してもらうために、営業部長にBERCの勉強会に入ってもらいました。今回、CSR部会に参加した藤生部長は、BERCの年間活動報告に、「社会貢献をビジネスに活かすCSR」として掲載されました。我々が率先して勉強するその姿を見て、そうだろうという社員も増えていきます。

藤生：BERCに参加して3年目ですが、他社の方は、CSRはお金を稼がない部署だとか、現場も知らないということが阻害要因となり、協力する体制になっていないとよく言われます。しかし当社では津村本部長を筆頭に、現場の社員が参加することで積極的に外部に発表できるようになり、自分たちの活動を振り返って見ることができました。今のままで満足せず、自分たちの本業を生かして継続できればいいと思っています。

森本：CSR教育や指導を受ける前は、社員は売上がすべてという考えでやってきました。CSRの教育・指導を受けた後は、売上や利益に対する考え方が本質的に変わりました。つまり、背景にお客様の満足が前提になってきたことです。CSRは奥が深いと思うと同時に、総合的な売上と利益を上げるには非常に役立つことを痛感しています。

鈴木：昨年BERCに参加していますが、最初は場違いという感覚が強くありました。名刺交換しても会話がかみ合わない状況で、ディスカッションをしたら営業とは壁を感じると言われます。しかしアデランスでは津村本部長までも理解されています。営業本部会議で箕輪部長から毎月CSR報告を受けたことで、私の考えも変わってきました。まだまだ勉強不足ですが、CSRを事業と一体化してもっと広げていけたらいいと思っています。

田中：実は社員は意識していませんが、会社で仕事を通じて学んで成長し会社に貢献することで、社会にも貢献しているのです。アデランスのCSR活動の良い点は、営業が主体で行ってきたことを統合して集めCSR活動となっていることです。また、経営理念を自分たちの思いとして持っているのが、機軸がしっかりしています。格好良いCSRではなく、本業を通じてCSR活動を行うことが一番重要な形です。

東：最初勉強会では、「企業の社会的責任」という出だしが一番難しく、頭が痛くなりました。勉強していく中で、CS、ESが大事でそれと同じ活動だと思いました。それはCSRのために実施したのではなく、今までやってきたことがCSRだと教えていただいたことで、自分自身腹落ちしました。CSRが社員の活力につながったと思います。

陰山：3年くらい前にBERCに参加したとき、場違いな感じで、意見が合わない、感覚が違うという思いがありました。当社は、薄毛で苦しんでいる人に対してウィッグを提供してお悩みを解決することが原点にあります。このように社会貢献にきわめて近いビジネスが原点にあるので、CSRが素直に入ってきました。

田中：アデランスの大学での講義は、大変な反響です。一講義あたりの受講者は数百人に過ぎませんが、その後ろには家族がいてクチコミで広がります。大学は教育機関として社会から信頼され、そこでの授業は会社の信頼度を高め会社を見る目が変わります。また、アデランスでは強い思いをもって話をしているので、学生の評価がすごく良いのです。年間10校以上の大学で講義を行うことは、とても大きな成果だと思います。

箕輪：大学での講義という点では、2015年は放送大学で講義を行うという新たな広がりがありました。放送大学には学生が数万人も在籍されていて、津村本部長と私が放送を通じて、学生たちに当社のCSRの取り組みを紹介することができました。また、田中先生と共著させていただいた「三方よしに学ぶ『人に好かれる会社』」という書籍でも、当社の三方よし経営に基づいた事業と一体となったCSR活動を発信することができました。今後も大学での講義や書籍への執筆などといった発信基盤を強化させて、当社のお客様や社会への真摯な姿勢を伝えていけたらと思います。

津村：私は日本経営倫理学会で、「CSRは経営品質を高める」という素晴らしい言葉を聞きました。私たちのCSR活動は品質としてまだ途中であり、経営品質が100だとしたら現在は30くらいの状態であると、昨日の営業本部会議で話をしました。やはり中長期的に経営品質を高めながら、永続的に社会に貢献できる企業、それがグッドカンパニーであるといえます。企業が信頼され、信用されて活動していく方向で、みんなと一緒に作っていきたくと思います。

田中：根本会長には本当に感謝されたほうがよいと思います。トップが引っ張ることも大事ですが、根本会長のように動き出したらそれを暖かく見つめて支援してくれることが大事なのです。今アデランスは「好循環」しています。それは、何かあると会長兼社長がきちんと支えておられますので、それがアデランスのエネルギーになっていると思います。



## 田中 宏司 様

東京交通短期大学 名誉教授  
(社)経営倫理実践研究センター 理事・首席研究員  
日本経営倫理学会前副会長  
元 経済産業省「ISO26000 JIS 化本委員会」委員



## ステークホルダー・ダイアログの対談メンバー

(左から)  
東 西東京営業部長 鈴木 東東京営業部長  
陰山 東日本統括部長 田中宏司先生  
津村 代表取締役専務 COO 藤生 東関東営業部長  
森本 西関東営業部長 箕輪 CSR推進部長

# CSR 広報活動

アデランスグループの CSR 活動や取り組みを多くの方に知っていただくため、イベント等での講演、新聞等からの取材、書籍へのケーススタディの執筆、学術論文での研究対象としての協力などが進んでいます。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
アナリスト・投資家向けセミナー	1回	1回	8回	3回	1回
企業・一般向けセミナー	1回	2回	3回	10回	6回
大学での CSR 特別講義	0回	2回	11回	8回	5回

※2015年8月現在

## 主な活動内容

ひとりでも多くの笑顔を増やしたい  
東日本大震災の復興支援を目的とした「KIZUNA station」でご紹介した「One World プロジェクト」との連携や、フォンテーヌウィッグをご利用されている、タンゴ歌手の冴木杏奈さんの番組「杏奈カフェ」との連携など、アデランス様は、本業を通じたCSR活動により、関わる人々のすべてを元気にしていきたいという活動をされています。全国にあるコミュニティFMラジオ局も、災害時の頼れるメディアとして、また常日頃から放送を通じて地域に根差し、信頼できる地域メディアとして活動しています。根っこにあるものが共通である両社で、「笑顔のために」の活動を通じて、ひとりでも多くの笑顔を増やすお手伝いをさせていただきたいと思っております。

株式会社ミュージックバード  
コミュニティ&ネットワーク部  
部長 吉村 仁 様



### KIZUNA Stationと One Worldプロジェクト

全国のコミュニティ FM 局のネットワークを通じて、「KIZUNA Station」が3月11日に放送され、東日本大震災後に当社がウィッグのお手入れ支援サービスをサポートした「One World プロジェクト」の活動が特集されました。ボランティア団体と病院と当社が三位一体となって、今後もウィッグのお手入れ支援サービスを実施していきます。



### コミュニティFM番組での CSR活動の発信

タンゴ歌手の冴木杏奈様が番組パーソナリティを務める、全国のコミュニティFM局の番組「杏奈カフェ」の公開録音に、女性中心に260名以上が集まり、当社と冴木杏奈様との出会いの経緯と、当社がCSR活動としてサポートしていることを、番組の中で伝えました。

## 書籍・雑誌



「マーケティング論理が企業を救う」への取材記事



「放送大学教科書:技術者倫理」への執筆



「人事実務」への取材記事



「経営倫理」No.76への執筆



「実践!『やじうま広報塾』」への取材記事



「三方よしに学ぶ人に好かれる会社」への執筆



サンライズ出版株式会社  
代表取締役  
岩根 順子 様

### 近江商人のふるさとへの ご案内をご縁に

箕輪部長をはじめ日本経営倫理学会のみなさまを、近江商人発祥のふるさと滋賀県五箇荘町などにご案内したのがご縁で『三方よしに学ぶ人に好かれる会社』が生まれました。三方よしの経営理念はCSRの源流ともいわれます。実際に見聞いただいたことが、アデランス様の経営の中により一層浸透することを願うものです。

## 目次

経営理念・CSR方針	1	社会・地域貢献	9
トップメッセージ	2	お客様の安心・安全	11
特集		環境への取り組み	13
新たな戦略的CSR	3	学術・文化活動	15
アデランスの研究開発	5	海外での取り組み	17
医療用ウィッグのJIS規格化	7	ステークホルダー・ダイアログ	19
医療と介護	8	CSR広報活動	21
		目次・編集方針 等	22

## 編集方針

「CSRコミュニケーションレポート2015」発行にあたり

2012年、当社として初めての「CSRコミュニケーションレポート」を発行したことは、当社のこれまでの取り組み内容を社内外に伝えただけでなく、新たな活動のきっかけにもつながってきています。

当社のCSR活動や取り組みは、書籍やメディアなどに取り上げていただくようになり、様々な団体とのコラボレーションにまで発展してきています。

今回のレポートでは、そのような広がりを見せる当社の取り組み内容にフォーカスしています。

お客様、お取引先、社員、株主・投資家、地域社会などのステークホルダーの皆様におかれましては、本書をご高覧の上、当社の社会的価値の創造についてご理解いただくと共に、率直なご意見や今後当社に期待されること、ご要望等を頂戴できれば幸いです。

## CSR重要課題

あらゆる種類の組織のための社会的責任に関する手引である国際規格ISO26000が2010年に発行されました。持続可能な社会を目指す当社の活動(本紙9ページから16ページに記載)は、ISO26000の7つの中核主題に基づき分類しています。

- 7つの中核主題 —
- 組織統治 人権
- 労働慣行 環境
- 公正な事業慣行 消費者課題
- コミュニティへの参画及び発展

## 報告書の対象期間と範囲

対象期間:2014年3月~2015年2月まで。  
ただし、特徴的で継続的な活動についてはこれ以降の最新の情報もご紹介しています。

## 対象範囲

株式会社アデランス及び主要グループ会社を含みます。

## 経営方針や財務情報に関して

業績やコーポレートガバナンスなどについては当社IRサイトをご覧ください。

<http://www.aderans.com/ir/index.html>

## 企画・制作

株式会社アデランス CSR推進部  
アドバイス・サポート:ツバルの森

## 発行年月と次回発行予定

発行日:2015年9月

次回:2016年8月予定

## CSR情報開示の体系

アデランスグループの様々な活動を、ステークホルダーの皆様へ適切に情報をお届けできるよう、「冊子版」と「Web」の形式でまとめています。

## 冊子版



冊子版では、「CSRコミュニケーションレポート」「笑顔のために」の2誌において、特徴や進展のある活動内容をクローズアップして紹介しています。

## Web



冊子で紹介していない活動内容や数値・データ等を集約し、開示しています。

<http://www.aderans.com/csr/>